

銚子市および神栖市の小・中・高校生のペット飼養に対する意識調査

— I. ペットの飼養状況について —

The questionnaire survey on the awareness of pet animal care to school children and students in Choshi City and Kamisu City

— I. The current situation of pet animal care —

内川 隆一¹⁾・市川 真衣²⁾・河野 真友²⁾・坂井 美穂²⁾
吉村 誠人²⁾・大山 浩貴²⁾・鎌北 直実²⁾

Ryuichi UCHIKAWA, Mai ICHIKAWA, Mayu KOHNO, Miho SAKAI
Masato YOSHIMURA, Hiroki OHYAMA and Naomi KAMAKITA

千葉県銚子市および茨城県神栖市内におけるペット飼養の実態並びに飼養者の意識を知る目的で平成23および24年の6月から7月にかけて千葉県銚子市および茨城県神栖市内の学校に通う小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象として「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。本報ではペットの飼養状況を中心にその結果を報告した。両市の80%以上の学童・生徒は動物に対して好意を抱いており、その40%が犬猫を、30%がその他の動物をペットとして飼養していた。また、現在ペットを飼っていない人もその半数以上がペットを飼いたいと思っていた。動物は嫌いだと答えた人の多くは動物に対して恐怖心を持っており、過去の動物による嫌な経験が一つの原因となっている可能性が指摘された。しかし、犬猫の健康に対する基本的理解度は低く、感染症や予防接種に対しても関心があまり高くないことが明らかとなった。また、現在犬猫を飼養している人においても、不妊・去勢手術に対する関心が低く、手術が行われたのは1/3程度であった。動物アレルギーが強く疑われる学童・生徒が少なからず存在し、息苦しさ、吐き気といった重い症状が現れた人も含まれていた。

1. はじめに

近年、我が国においても次第に「単にペットを飼う」から「伴侶動物として家族の一員として一緒に生活する」と

いう欧米的な飼い主の意識変革がもたらされつつある¹⁾。平成17年6月に「動物の愛護及び管理に関する法律」の一部が改正され、都道府県は動物の愛護及び管理に関する施策を推進するための「動物愛護管理推進計画」を定め、飼い主が動物の適正な飼養と管理を行なうよう啓蒙・指導することが求められている。また、平成18年10月31日付けの環境省告示では「人と動物とが共生する社会を形成するためには、動物の命を尊重する考え方及び態度を確立することと併せて、動物の鳴き声、糞尿等による迷惑の防止を含め、動物が人の生命、身体又は財産を侵害することのないよう適切に管理される必要がある」としている。しかし、近年のペットブーム等を背

連絡先：内川隆一 ruchikawa@cis.ac.jp

1) 千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科

Department of Animal Risk Management, Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science

2) 千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科

Department of Animal Pharmaceutical Science, Faculty of Pharmacy, Chiba Institute of Science

(2013年9月24日受付, 2013年12月3日受理)

景に十分な知識のないまま安易に動物の飼養を開始し、不適切な管理、飼養の放棄や鳴き声、糞尿放置、悪臭などにより近隣とのトラブル発生が全国的に後を絶たない。

こうした問題を解決するためには、飼い主に対する啓発活動や学校教育を通じた普及啓発活動が必要不可欠とされているが、現実には困難な点も多い。茨城県は平成20年3月の動物愛護管理推進計画(改定)²⁾の中で「動物が命あるものであることを踏まえ、人と動物の共生を前提に、動物の習性を理解した適正な取扱いや飼養管理について、県、市町村、関係機関・団体、地域、動物の飼い主等、多くの関係者が連携協働して、幼児教育・学校教育などの教育活動や広報活動などを通じ、県民への動物愛護意識の普及啓発に努め、日常生活への定着に取り組めます。」としている。また千葉県はその動物愛護管理推進計画³⁾の中で「動物に関する問題は、地域によって多種多様であり、その解決方法も、それぞれの地域で異なる。そのため、地域における取組や問題解決の核となる動物愛護推進員の委嘱やボランティア等の育成を行い、所有者のいない猫に係る活動など、地域における取組を支援します」としている。

このような状況の中、我々は千葉県銚子市および茨城県神栖市内におけるペット飼養の実態並びに飼養者の意識を知る目的で、小・中・高等学校の学童・生徒を対象とした「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。本報では、ペットの飼養状況を中心にその調査結果を報告する。

2. 調査方法

銚子市および神栖市教育委員会の協力のもと、平成23および24年の6月から7月に両市内の学校に通う小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象として「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。

2. 1 アンケート用紙の作製

平成23年度は「ペットについて」、「飼い主のモラルについて」、「野良犬や野良猫について」、「病気について」、「法律について」、「東日本大震災について」の項目に、平成24年度には「ペットについて」、「ペットの健康について」、「野良犬・野良猫について」の項目に沿った設問を作成した。設問は学年別に分かりやすい文章に書き改めた後、アンケート用紙の印刷と製本を行った。

2. 2 アンケート用紙の配布・回収および集計

調査実施の事前了解が得られた学校にアンケート用紙を持参し、学校内でのアンケート用紙への記入を依頼した。記入終了の連絡があった学校から順次訪問し、調査用紙の回収を行った。両市における参加学校の分布を図1に示した。回答内容は随時表計算ソフトExcelを用い

て項目別に集計し、両市間および学年間の違いなどについての解析を実施した。



図1 銚子市・神栖市の参加学校分布図

○: 小学校 ●: 中学校 ◎: 高校

3. 結果および考察

3. 1 調査概要

本調査におけるアンケート実施学校数と総参加人数を表1に示した。平成23年には銚子市および神栖市内のすべての小学校(29校)、中学校(16校)、高校(6校)の協力が得られ、銚子市内では1,901人(回収率、97.3%)、神栖市内では2,338人(回収率、96.5%)の学童・生徒からの回答が得られた。平成24年調査では同様に、銚子市内および神栖市内のすべての小学校(28校)、中学校(15校)、高校(6校)の協力が得られ、銚子市内では1,790人(回収率、96.0%)、神栖市内では2,341人(回収率、95.9%)の学童・生徒からの回答が得られた。

3. 2 ペットの飼養について

小・中学生を対象にしたペットについてのインターネット・アンケート調査⁴⁾によると、全国小・中学生の42.3%がペットを飼養している、あるいはこれまでにペットを飼養した経験があると回答した。

「ペットを飼っていますか」

銚子市では45.9~51.9%、神栖市では50.0~53.4%の学童・生徒が現在何らかのペットを飼養していると回答した。両市におけるペット飼養頻度は全国的にも高いと思われる。飼養動物種は犬猫が最も多く、両市ともにペットを飼っている小学生の35%、中学生・高校生の40%以上に達した。一方で全体の40%以上が、これまでに犬猫を飼ったことが無いと回答した。犬猫以外のペット飼養について小学生の半数近くが「飼っている」と回答したが、その割合は学年が進むにつれて減少した(表2)。

飼養されていた動物種は多岐に及んだが、魚類が7割以上と格段に多く、学年間での大きな差は認められなかった。小・中学生を対象にしたアンケート調査⁴⁾においても29.2%に人が金魚を飼育していると答え、イヌに

次いで2位であった。金魚を含めた魚類の飼養頻度が全国的に高いことがうかがえるが、犬猫を飼えない住居環境が影響している可能性が高い。昆虫類およびカエルの飼養頻度は学年とともに明らかに減少し、年齢により興味の対象動物に変化があることが示された。その他にはニワトリ、ザリガニなどが含まれていた(表3)。

ペットの入手元を尋ねたところ、「知人」と答えた人が最も多く、全体の38.8%に達した。次いで、「ペットショップ」(26.7%)、「拾った」(17.7%)、「ブリーダー」(4.3%)の順で、動物愛護団体から譲り受けた人は1.7%であった。本調査では動物種による入手元の違いは把握していないが、犬猫の入手方法に関するインターネット・アンケー

ト調査によると、営利事業者(ペットショップ、ブリーダーなど)から購入した人が犬69.8%、猫18.4%、「拾ったあるいは知人から貰った」人が犬11.6%、猫45.4%であり^{5,6)}、動物種により入手方法が大きく異なることが推定される。一方、千葉県および茨城県の一般住民を対象とした調査^{7,8)}では、それぞれ営利事業者からの購入した人の割合(犬33.1、24.1%、猫4.4、4.3%)に比べ、拾ったあるいは知人から貰った人の割合が極端に高かった(犬48.7、64.9%、猫54.6、89.4%)。両県では飼養されている犬猫の半数以上が拾われたり、知人から譲り渡されたりしていることになる。これらの違いは地域により犬猫の入手方法が大きく異なっていることを示している。

表1 銚子市・神栖市のアンケート実施校数と参加人数

銚子市	学校数	人数	男子	%	女子	%
小学校	13	1,045	521	49.9	524	50.1
中学校	8*	1,094	553	50.5	541	49.5
高校	3	1,552	665	42.8	887	57.2
合計	24	3,691	1,739	47.1	1,952	52.8
神栖市	学校数	人数	男子	%	女子	%
小学校	16**	1,908	961	50.4	947	49.6
中学校	8	1,714	884	51.6	830	48.4
高校	3	1,057	589	55.7	468	44.3
合計	27	4,679	2,434	52.0	2,245	48.0

*, 統合により平成24年度は7校となった。

** , 統合により平成24年度は15校となった。

表2 犬や猫を飼っていますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
飼っている	34.9	41.2	43.9	36.9	43.1	45.9
飼ったことが無い	51.3	44.6	44.5	51.3	47.2	42.5
他の動物を飼っている	47.5	34.1	27.3	44.8	34.3	22.6

表3 犬猫以外にどんな動物をペットとして飼っていますか

動物	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
魚類	80.3	80.6	73.0	77.2	71.8	71.2
昆虫	16.7	8.9	4.7	14.3	7.0	5.1
カメ	10.0	14.4	16.1	9.3	11.7	16.1
ハムスター	6.7	4.4	3.8	9.9	10.1	11.0
小鳥	5.4	7.2	5.7	9.1	14.1	10.2
ウサギ	5.4	3.3	8.5	5.2	6.0	4.2
ヘビ・トカゲ	5.4	5.0	1.9	2.7	3.7	3.4
カエル	4.6	0.6	0.5	2.5	3.4	0.8
その他	7.9	2.2	4.3	5.5	6.0	4.2

「ペットの世話は主に誰がしていますか」

神栖市における結果を図2に示した。親が世話をしていると回答した学童・生徒が最も多く36%を越え、その割合は学年が進むにつれて増加した。一方、自分で世話をしていると答えた人は小学生で23.3%であったが、中学・高校生では次第に減少した。「その他」には、祖父母や兄弟姉妹と自分といった複数回答も含まれていた。銚子市においても同様の傾向が認められた。学年とともに、興味の変化や生活習慣の変化が自分でペットの世話をしなくなる一因となっている可能性がある。茨城県が行った小学校高学年を対象とした調査では、自分で世話をしている人が28.5%、両親が世話をしている人が37.1%であった⁹⁾。本調査における小学生の結果では、親が世話をしている人の割合(銚子市 33.2%)は同じであったが、自分で世話としている割合(銚子市 23.3%)がやや低かった。

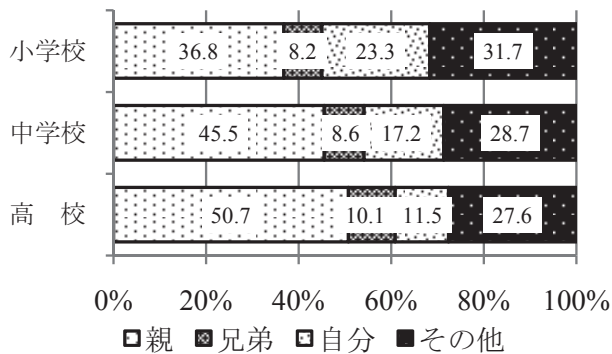


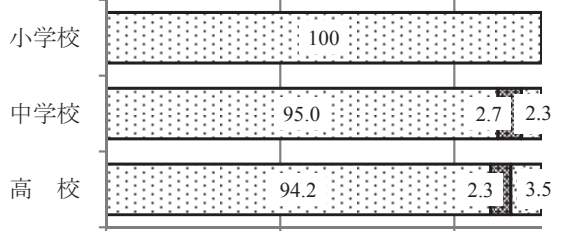
図2 ペットの世話は主に誰がしていますか (神栖市)

「動物が好きですか」

両市ともに小学生の90%以上、中学・高校生の83%以上が「動物が好きである」と答え、大部分の学童・生徒は動物に対して好意的な印象を持っていることが示された。その理由を尋ねると、「かわいい」「見ていると癒される」といった回答が多く見られた。銚子市における犬猫飼養の有無による違いを図3に示した。飼養している人の94%以上が「好きである」と回答したのに対して、飼っていない人では「嫌い」または「興味がない」と回答した人が小学生の15%に達し、中学生(24%)・高校生(23%)ではその割合が増加した。同様の傾向は神栖市においても認められた。動物の嫌いな理由を尋ねたところ、半数の人が「怖い」、20%以上が「特に理由はない」と回答した。その他には「世話が面倒」など「追いかけられた、咬まれたことがある」、「うるさい」などが含まれていた(図4)。動物嫌いだと答えた人の多くは動物に対して恐怖心を持っており、過去に動物から与えられた嫌な経験が

動物嫌いの原因となっている可能性が示された。そのような経験をしないためには、正しい動物との接し方についての教育、放し飼いやしつけの不備などの飼い主の責任に属する問題の解決、野良犬・野良猫を許さない地域の意識改革が必要となると思われる。

犬猫を飼っている人



犬猫を飼っていない人

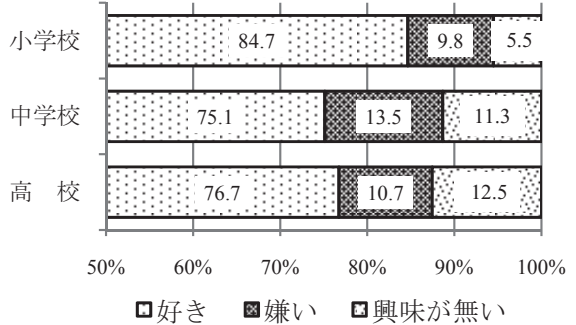
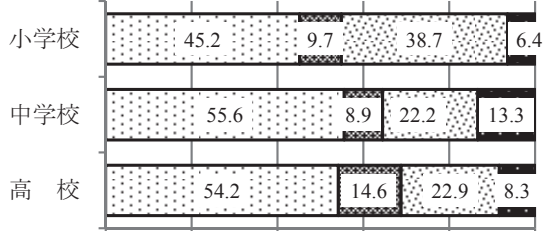


図3 動物が好きですか (銚子市)

銚子市



神栖市

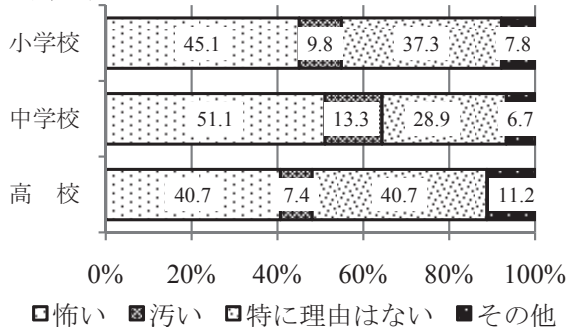


図4 動物が嫌いな理由は何ですか

「今後ペットを飼ってみたいですか」

現在ペットを飼養していない学童・生徒の50%以上が飼ってみたいと答え、特に小学生では7割が飼いたいと思っていた(表4)。飼いたい動物種は犬、猫、小鳥、魚類、爬虫類の順であった。一方、ペットを飼いたくない

と答えた人にその理由を尋ねると、「世話が大変」、「家では飼えない」、「家族にアレルギーの人がいる」、「お金がかかる」の順に多くの回答が得られた(図5)。その他には「部屋が汚れる」、「死ぬと悲しい」などが含まれていた。「3人以下の家庭」では銚子市の60.0%、神栖市の59.1%がペットを飼っていないのに対して、「6人以上の家庭」では銚子市の55.6%、神栖市の61.3%がペットを飼養していた。これらは、ペットを飼養するにあたり、家庭・住居環境が重要な要素となっていることを示している。

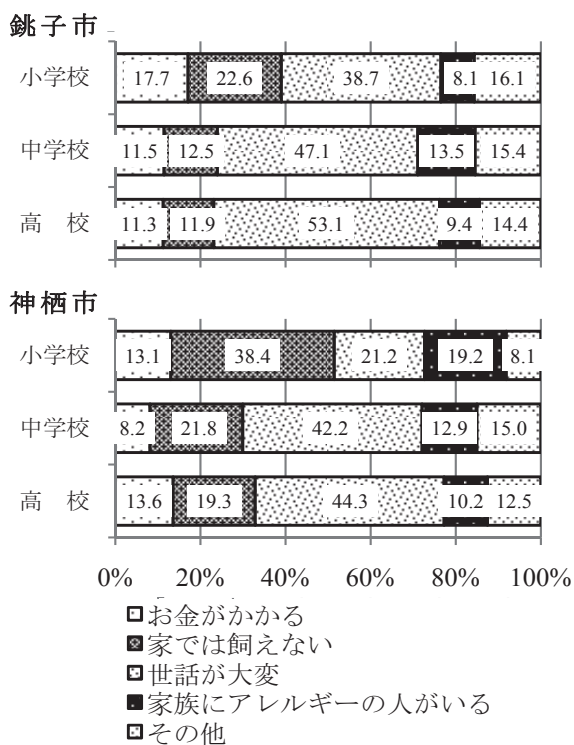


図5 ペットを飼いたくない理由は何ですか

3.3 ペットの健康について

近年、「ペットも家族の一員である」、「家族であるペットに長生きしてもらいたい」という志向が強くなっていることが示されている¹⁾。正しくペットを飼養するには、日常の細やかな健康管理が不可欠であるとされている。

「ペットの健康状態について気をつけていることは何ですか」

「元気があるかどうか」と回答した学童・生徒が最も多く、全体の33.1%に達した。次いで「餌の量」(24.0%)、「運動」(16.3%)、「飲水量」(12.1%)の順であった。一方、糞(8.8%)や尿(4.4%)に気を付けている人は少数であった。両市ともに、動物病院などでペットの健康診断をしたことがあると答えた人は26.2%であり、多くの人はペットの健康診断に対して関心の低いことが示された。

「犬や猫の寿命は、どのくらいだと思いますか」

犬猫の寿命は飼養環境によっても変わるが、一般に大型犬では10年以上、小型犬では15年以上と言われている

表4 今後ペットを飼ってみたいですか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
飼いたい	69.0	53.4	55.0	73.5	60.4	63.5
飼いたくない	31.0	46.6	45.0	26.5	39.6	36.5

表5 犬や猫の寿命はどのくらいだと思いますか

	City	ペットの飼養 有				ペットの飼養 無			
		1年以下	1~5年	6~9年	10年以上	1年以下	1~5年	6~9年	10年以上
小学校	銚子市	0.8	6.6	28.1	64.5	0	3.8	57.7	38.5
	神栖市	0.8	10.2	31.6	57.4	1.0	15.7	40.1	43.2
中学校	銚子市	0	5.4	43.5	51.1	0.7	10.5	46.4	42.4
	神栖市	0.5	7.6	39.7	52.2	1.0	11.8	48.3	38.9
高校	銚子市	0	5.4	34.3	60.3	0.3	9.6	54.3	35.8
	神栖市	1.1	7.1	42.5	49.3	0.9	8.7	56.2	34.2

■, 最多回答を示す。

る。ネコの場合には、室内飼養で10年～16年と言われているが、20年以上生きるネコも珍しくはない。一方、野良猫では4年以下と言われている。この設問に対して「10年以上」と正しく回答した学童・生徒が銚子市では48.7%、神栖市では46.7%で最も多かった。しかし、その割合は半数に及ばず、5年以下と回答した人も銚子市で8.8%、神栖市で11.8%に上った。表5にペット飼養の有無による犬や猫の寿命についての認識の違いを示した。ペットを飼養している人では半数以上が正しい理解をしたのに対し、飼養していない人では神栖市の小学生以外は「6～9年」と回答した人が最も多く、ほぼ半数に達していた。これらの結果は学童・生徒におけるペットに対する基礎的知識が十分ではないことを示している。

「飼っているペットが重い病気になった時にどうしますか」

ペットを飼養している学童・生徒の28.8～43.6%がペットの病気を経験しており、その時に動物病院に行ったと答えた人は78.1%に達した。ペットが重い病気になった時の対処について尋ねたところ、「最後まで治療する」という回答が最も多かったが、学年が進むにつれて減少し、逆に安楽死を選択した人の割合が増加した(図6)。その他には「治療を行うが、治らない場合は安楽死を考える」「少しでも治る可能性があるなら治療を行い、治らないのであれば治療は行わずに自然に死なせてあげたい」という回答が多く見られた。これらは、学年が進むにつれて、病気や死に対する考え方や認識に変化が表れたものと思われる。

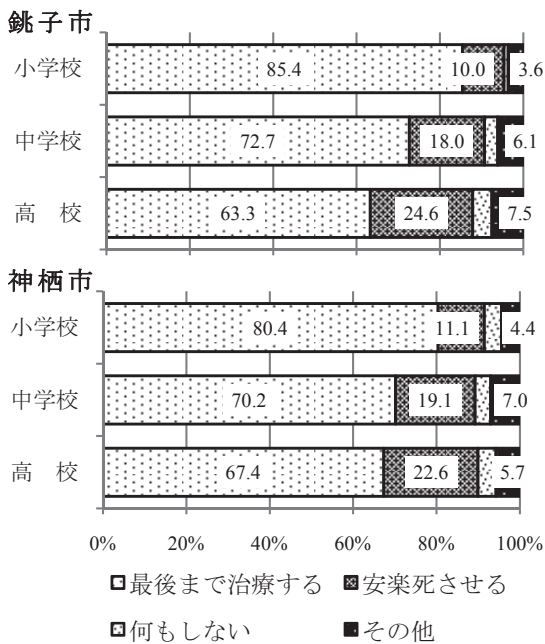


図6 飼っているペットが重い病気になった時にどうしますか

「犬や猫の予防接種があることを知っていますか」

両市とも小学生の57.6%以上、中高生の77.8%以上が犬猫にも予防接種があることを知っていた。予防接種の種類について、最もよく知られていた感染症は狂犬病であり、小学生の22.0～23.9%、中学生の39.4～42.4%、高校生の51.7～53.2%が知っているとして回答した。しかし、狂犬病予防接種は犬に対して毎年受けることが義務付けられていることを小・中学生の55%以上および高校生の47%以上が知らなかった。次いで多く知られていたのが混合ワクチン(11.4～16.8%)であったが、具体的な病名を答えられたのは5%以下であった。一方、犬猫の感染症と人の感染症が混同され、インフルエンザ、はしか、おたふく風邪などの人の感染症名を答えた人が3.5～20.2%見られた。

「あなたのペットは予防接種を受けていますか」

実際の犬猫に対する予防接種状況を図7に示した。両市ともに18.7～29.0%の学童・生徒だけが予防接種をしていると回答した。前の設問で小学生は半数および中学生・高校生の7割以上が動物用予防接種の存在を知っているにもかかわらず、実際の予防接種率は極めて低いものであった。分からないと回答した人が6割以上見られたことを考え合わせると、ペットの感染症予防に対する認識の低さが浮き彫りにされた。

実際に受けた予防接種を尋ねると、狂犬病と答えた人が最も多く60～70%であった。1/3の人は法定の狂犬病予防接種を受けていないか、受けたことを知らないこ

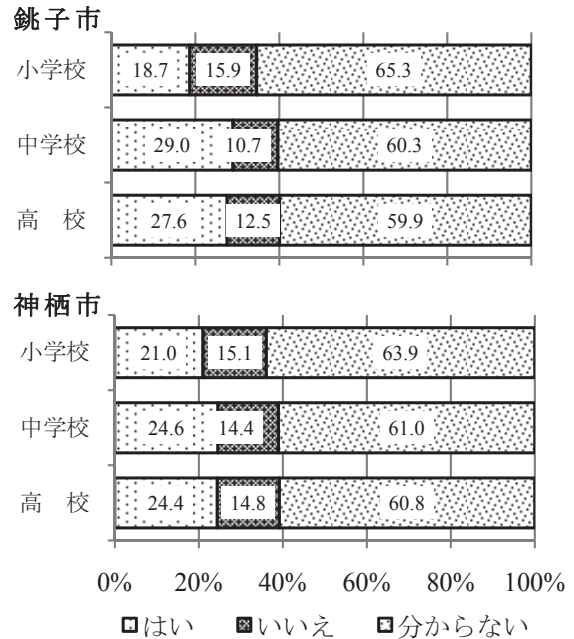


図7 飼っている犬猫は予防接種を受けていますか

とになる。次いでフィラリア（6～24%）、混合ワクチン（12～29%）と答えた人が多かった。フィラリアについては予防薬との混同があるものと思われる。また、一般的に毎年接種が勧められる混合ワクチンを接種していた人は1/3以下であった。

これら結果から、銚子市および神栖市の学童・生徒ではペット動物、特に犬や猫の健康に対する関心があまり高くないと言える。今後、ペットは家族であるとの考え方に立った動物の健康への気使いが出来るような教育・啓蒙活動が求められる。

3. 4 不妊・去勢手術について

全国的に望まない出産が、捨て犬・捨て猫の原因となり、殺処分率や野良犬・野良猫の原因にも関連している可能性が高いとされている。不妊・去勢手術の実施率は千葉県では雄犬30.0%、雌犬55.3%、雄猫79.2%、雌猫82.0%と猫で高い手術実施が見られたが⁷⁾、茨城県では犬猫ともに44%⁸⁾であった。

「飼っている犬猫が望まない繁殖をした事がありますか」

望まない繁殖は無いと回答した学童・生徒は2/3以上（68.9～80.3%）に達したが、5.3～9.9%の人はペットの望まない繁殖を経験していた。生まれた子をどうしたかを尋ねたところ、「譲渡した」、「保健時・動物病院に引き取ってもらった」、「逃げた」、「続けて飼養した」などの回答が得られた。

「犬猫の不妊・去勢手術を知っていますか」

不妊・去勢のための手術があることを知っている学童・生徒の割合は小学生（34.1%）で、中学生（43.6%）と半数以下であり、高校生（54.6%）ではわずかに半数を越えた。両市の学童・生徒では、犬猫の望まない出産を防ぐ為の方策として手術が十分に認識されていないことが明らかとなった。また、実際に犬猫を飼養している人の中で、手術を受けさせた人は1/3以下で、ほぼ半数が「手術を受けさせていない」と回答した（図8）。これらの結果は千葉県、茨城県内^{7,8)}においても両市での手術実施率が低

い可能性を示している。また、分からないと答えた人の割合が高かったことは学童・生徒において不妊・去勢手術に対する関心・理解が低いことを示していると思われる。

ペットに対する不妊・去勢手術の良い点については40%以上が「妊娠を防ぐ」と答えた。次いで「長生きする」、「性格が落ち着く」、「雌雄同居が可能」などの回答が多かった（表6）。一方、不妊・去勢手術の悪い点について、25%以上が「かわいそう」と答え、次いで「お金がかかる」、「子供が産めなくなる」、「傷が残る」の順であった（表7）。

今後、不妊・去勢手術が不必要な妊娠を防ぎ、野良犬・野良猫の減少につながるばかりではなく、長寿に伴う子宮・乳腺・前立腺疾患などの病気予防、性的ストレスの軽減、感染症の防止、無駄吠えなどの問題行動の抑制などの効果があることについて広く理解を求めることが必要である。

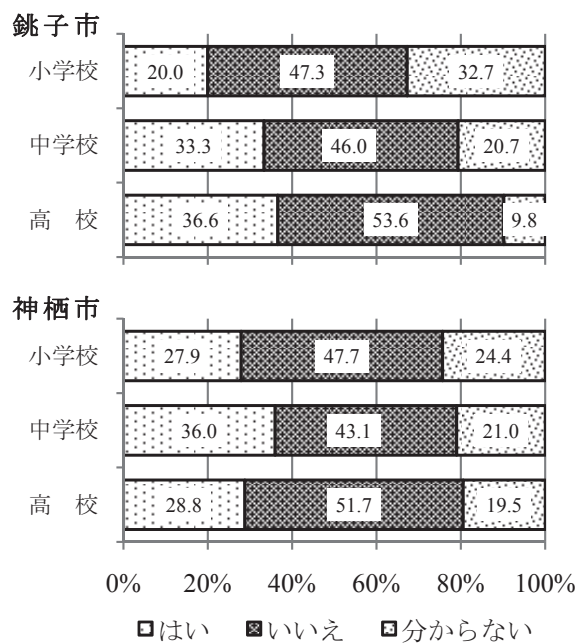


図8 犬猫の不妊・去勢手術をしていますか

表6 不妊・去勢手術の良いところはなんでしょうか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
妊娠を防ぐ	40.9	52.7	62.8	40.2	46.5	61.5
長生きする	31.6	19.5	13.4	29.5	20.3	13.2
性格が落ち着く	8.9	12.2	12.5	14.0	16.3	10.8
雌雄同居が可能	5.5	9.4	7.1	6.8	9.3	9.7
臍がし易くなる	9.2	5.6	3.0	8.9	6.7	4.4
その他	3.8	0.6	1.2	0.6	0.8	0.3

表7 不妊・去勢手術の悪いところはなんでしょうか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高 校	小学校	中学校	高 校
可哀そう	30.8	25.4	32.7	38.6	26.0	27.6
お金がかかる	11.0	20.8	23.8	11.7	24.1	18.7
子供が産めなくなる	20.2	17.8	15.2	17.9	12.5	18.4
傷が残る	21.4	19.1	11.6	17.5	19.7	15.0
手術が心配である	14.2	16.2	16.1	14.4	17.1	19.9
その他	2.3	0.7	0.6	0.0	0.7	0.3

3.5 動物アレルギーについて

動物アレルギーの現状はよくわかっていない点が多いが、千葉県の調査では一般住民の8.5%が動物の毛、垢、唾液、尿、糞などに対してアレルギー反応を起こすと回答した⁷⁾。動物アレルギーによりアナフィラキシーショックを起こし、時に死にいたることも知られている。

「動物に近づいたり触ったりした時、鼻水や涙が出るなどの異常が起こったことはありますか」

半数の学童・生徒がアレルギーは無いと答えたが、両市ともに3割の人が何らかのアレルギー疾患を持っていると回答した。動物との接触で異常があるか尋ねたところ、両市ともに全学年を通じて11～14%の人が「はい」

と回答し、動物アレルギーを持つ可能性が示された。また、両市ともに15%前後の人が自分も含めた家族内に動物アレルギーを持っていると回答した。

動物アレルギーが疑われる人に、具体的な症状を尋ねると「かゆみ」、「くしゃみ」、「鼻水」を訴える人が3割以上に達した。また「息苦しさ」、「吐き気」などのアナフィラキシーショックにつながる重い症状を経験した人がいることが確認された(表8)。これらの症状について両市間および学年間の違いは見られなかった。その他の異常には、蕁麻疹、顔がはれる、喘息発作などが含まれていた。

さらに、アレルギーの原因となっている動物について尋ねると、「猫」、「犬」、「ウサギ」、「ハムスター」の順に多かった(表9)。また動物種は不明であるが「羽毛」また

表8 動物に近づいたり触ったりした時どんな異常が起こりますか

症 状	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高 校	小学校	中学校	高 校
かゆみ	51.6	55.7	50.0	60.4	71.4	51.6
くしゃみ	48.4	60.7	59.8	37.7	71.4	68.8
鼻 水	35.5	50.8	65.7	29.2	46.9	68.8
涙	27.4	31.1	26.5	8.5	23.5	26.6
息苦しさ	11.3	16.4	16.7	6.6	11.2	10.9
吐き気	3.2	1.6	1.0	0.9	2.0	4.7
その他	0	9.8	2.9	5.7	0	4.7

表9 アレルギーの原因となっている動物は何ですか

原 因	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高 校	小学校	中学校	高 校
犬	11.8	9.6	11.9	12.4	9.9	13.1
猫	32.8	21.2	25.2	21.1	22.5	23.0
ウサギ	6.7	3.2	3.5	3.3	3.8	4.1
ハムスター	4.2	4.5	2.7	2.9	5.6	4.1
羽 毛	9.2	7.1	3.1	3.8	4.2	2.5
動物の毛	2.5	3.2	2.2	5.3	2.3	0.8

は「動物の毛」を原因とする人も認められた。こうした状況を踏まえて学校教育の中でも動物アレルギーに対しては食物アレルギーと同様の注意がはられることが望まれる。

3. 6 災害時の対応について

東日本大震災および原発事故により多くの住民が緊急避難を余儀なくされたため、自宅にとり残され、飼い主とはぐれたペットが放浪状態となった例が多数生じたことを受け、環境省は本年6月に「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」¹⁰⁾をまとめた。

「東日本大震災の際に避難する時、ペットはどうしましたか」

震災の後、銚子市では21.3%、神栖市では31.5%の学童・生徒が実際に避難所への避難を経験していた。避難する際にペットをどうしたか尋ねたところ、銚子市の31.1%、神栖市の36.8%が避難所に同伴し、それぞれ66.2、57.3%の人はペットを家に残していた。また、2.7、6.0%の人が、逃がした／逃げたと回答した。ペットを家に残した人の中には、「一緒に避難したかったが、避難所にペットを受け入れてもらえなかった」、「ペットがいるから避難所に避難できない」などの声も多く見られた。また、避難所に指定されている学校などでも、ペットに対する対応の仕方が明確に指示されていなかったなどの意見も聞かれた。震災後のペットの変化について、「よく吠える様になった、24人」、「地震が起こると怯える、9人」、「地震が起きると柵を飛び越えて脱走する、4人」、「エサを食べなくなった、3人」、「トイレができなくなった、3人」など回答があった。その他には「下痢ぎみになった」、「ケンカをすることが増えた」、「地震後、イヌがいつも空を見ている」などストレス症状が現れたペットもいた。

環境省のガイドライン⁷⁾によると、飼い主とペット(おもに犬および猫)が同行避難することが合理的であるが、そのためには、飼い主の日頃からの心構えと備えについて具体的な検討が急務となっている。人とペットが安全に避難するためには、普段からキャリーバック等に入ることを嫌がらないことやしつけを行っておく必要があり、様々な人が共同生活を送る避難所においてペットを飼養

する場合は、動物が苦手な人、アレルギーを持っている人等への特別の配慮が必要であり、飼い主には普段からのしつけと避難先においてペットの飼養に必要なものを用意しておくことも求められる。また自治体等では、「飼い主がペットと同行避難する事を前提とし、避難所における受け入れや仮設住宅におけるペットとの同居について、体制を整備する必要がある。」としている。海岸に面した銚子市および神栖市においても飼い主や自治体の準備が一日も早く行われることが望まれる。

4 おわりに

銚子市および神栖市では学童・生徒は動物に対して好意を抱いており、40%の人が犬猫を、30%の人がその他の動物をペットとして飼養していること、さらに現在ペットを飼っていない人の半数以上がペットを飼いたいと思っていることが明らかとなった。動物は嫌いだと答えた人の多くは動物に対して恐怖心を持っており、過去の動物による嫌な経験が一つの原因となっている可能性がある。これらの原因としては、本人の誤った認識と動物の取り扱い、不適切な飼養および野良犬・野良猫の存在などが考えられる。

しかしその一方で、犬猫の健康に対する基本的理解度が低く、感染症や予防接種に対しても関心があまり高くないことが明らかとなった。動物の感染症においては、発症してしまうと治療が期待できないことも多く、その予防が最優先される。この点からも、ペットの予防接種についての正しい知識が必要となる。「ペットは命あるものであり、家族である」との考え方に立った動物の健康への気遣いが出来るような教育・啓蒙活動が求められる。

望まない出産により捨てられたり、殺処分される子犬・子猫が後を絶たないことが全国的に大きな問題となっている。その対策には不妊・去勢手術が有用であり、神栖市、銚子市をはじめ近隣の自治体で実施されている手術に対する補助金制度の有効な活用が望まれる。両市において、実際に犬猫を飼養している人においても、不妊・去勢手術に対する関心が低く、手術が行われたのは1/3程度であった。今後、不妊・去勢手術の安全性や手術により泌尿器・生殖器の病気が予防できることなどの利点についても、更なる宣伝活動が実施されることが望まれる。

表10 東日本大震災の際に避難する時、ペットはどうしましたか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
連れて行った	31.5	24.6	36.8	21.0	47.8	32.1
家に残した	65.8	73.8	59.0	62.7	48.0	60.3
逃がした／逃げた	2.7	1.6	4.2	6.3	4.2	7.6

幼年期から動物に接することは「命の大切さ」を知る上で重要なこととされ、教育の現場でも実践されている。しかし、動物アレルギーが強く疑われる学童・生徒が少なからず存在し、息苦しさ、吐き気といった重い症状が現れた人も含まれていた。また、犬よりも猫に対してアレルギー症状を呈する人が多いことも明らかとなった。今後、食物アレルギーなどと同様に学校教育の中でも、動物アレルギーに対して十分な注意が払われることが重要であると思われる。

災害時の避難時におけるペットの同伴避難と非難所におけるペットの飼養管理についても、自治体と飼い主に対して早急な対応が求められている。

謝辞

今回の調査実施に当たって御尽力頂いた銚子市教育委員会、神栖市教育委員会、神栖市役所環境課の各位に感謝いたします。また、直接アンケート記入を御指導頂いた銚子市および神栖市内の小学校・中学校・高等学校の先生方の御協力により予想以上の規模で調査が実施できたことはうれしい限りであり、ここに関係各位に深謝いたします。

本研究の一部は平成23年度公益社団法人日本愛玩動物協会研究助成「家庭動物の適正飼養管理に関する調査」および平成24年度千葉科学大学教育研究経費「銚子市および神栖市の小・中・高校生のペット飼養に対する意識調査」の援助を受けて行われた。

5 参考文献

- 1) 内閣府：平成13年度 国民生活白書 ～家族の暮らしと構造改革～ コラム ペットと家族の関係. 2002, <http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/wp-pl/wp-pl01/html/13104c10.html>, (2013-08-23).
- 2) 茨城県：茨城県動物愛護推進計画(改定)ー人と動物が共生する地域社会の実現をめざしてー. 47pp, 2008.
- 3) 千葉県：千葉県動物愛護管理推進計画ー人と動物が共生できる社会の実現を目指してー. 26pp, 2008.
- 4) バンダイナムコゲームス/ネットマイル：小・中学生を対象に『ペット』についてアンケート調査. 2011, http://biz.netmile.co.jp/news/press_2011/press_release110621.html, (2013-08-23).
- 5) NPO法人動物愛護社会化推進協会：第12回飼い主に対する意識調査アンケート結果報告愛犬との出会いに関するアンケート. 2013, http://www.happ.or.jp/files/130513_enq.pdf, (2013-08-23).
- 6) NPO法人動物愛護社会化推進協会：第12回犬の飼い主に対する意識調査アンケート結果報告ー愛犬との出会いに

- 関するアンケート2013～. 2013, http://www.happ.or.jp/files/130206_enq.pdf, (2013-08-23).
- 7) 千葉県健康福祉部衛生指導課：犬猫の飼養実態調査結果について. 2009, http://www.pref.chiba.lg.jp/eishi/toukeidata/koyou/documents/shiyoujittai_kekka.pdf, (2013-08-23).
- 8) 茨城県保健福祉部生活衛生課：犬猫の飼養実態等調査業務犬の飼養実態アンケート調査結果報告. 77pp, 2010.
- 9) 茨城県保健福祉部生活衛生課：小学生高学年における家で飼っているペットに関するアンケート結果について. 2012, <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/seiei/EnvandAni/aigokangae.files/anketo.pdf>, (2013-08-23).
- 10) 環境省：災害時におけるペットの救護対策ガイドライン. 28pp, 2013.